

10 さくらい ひろし
櫻井 博（茨城県つくば市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
夢あおば	18.5ha	730kg/10a	203kg/10a(527kg/10a) [※]

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 正規雇用:1名(基本年間の作業は本人のみで行う。)
- 臨時雇用:4から5名(田植え、刈取り時期に家族(両親)や近所の人が手伝いに来る。)
- 栽培管理支援システムのザルビオを導入し、ヤンマーの農業機械と連携させて活用している。
- 株間に溝を切る水管理技術により高温障害を軽減しており、スマート農機と併せて近隣生産者へ情報発信・共有を行う。

【作付品目】

- 主食用米 コシヒカリ 3.8ha
- 飼料用米 夢あおば 18.5ha
- 芝 0.7ha
- 野菜(自家用) 0.1ha

【取組のきっかけ】

- 市の助成等地域全体の利点を考慮し、近隣農家に呼びかけ団地化と飼料用米の作付けを進めた。
- 「夢あおば」は多収が期待できる上、県の奨励品種であり種子生産が行われていることから選択。

【取組概要】

- 育苗箱当たり乾籾280gで密播することで箱数を抑え、ハウス育苗時の使用面積と労働時間を削減するだけでなく、移植時の10a当たり箱数を15～16枚から10枚弱まで削減し労力を軽減している。また、ドローンによる湛水直播を部分的に試行している。
- 土づくりのため刈取り後すぐに稲わらをすき込む他、鶏糞(ペレット)10a当たり5袋(75kg)をブロードキャスターにより施肥を行う。
- 「夢あおば」については作土深18cmと深めに耕起し、移植前は苗に弁当肥(窒素)を与え初期生育を確保している。
基肥に「水稻専用一発肥料」、穂肥・実肥に「空散追肥306」をドローンで施用する。10aあたり窒素分が1～1.5kgになるよう散布している。
ザルビオで衛星データを活用した可変施肥を実施し、品質の均一化、肥料使用量の軽減を図る。
- 病虫害防除と雑草防除もドローンで全面散布し省力化している。地域内圃場312ha分のドローン作業を請負い、地域に貢献している。
- 穂先を観察し登熟率85%を確認してから4～5日後に収穫することで登熟期間を確保しつつ、立毛乾燥による乾燥調製の燃料代削減を図る。
- 主食用米の乾燥調製後に飼料用米を収穫し作期分散で効率化している。直接取引せず全量をJAへ玄米でフレコン出荷しコスト低減している。

